

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北陸)	◎	一般レストラン (店長)	来客数の動き	・まだ特定の日に集中しているが、大人数での来客が増えて いる。団体での会合自体が少しずつ戻っている。
	◎	一般レストラン (統括)	お客様の様子	・能登半島地震があったが、その後の復興支援ムードや、3 月16日の北陸新幹線敦賀開業、北陸応援割の実施など経済を 盛り上げる動きがあり、景気は上向いている。
	◎	都市型ホテル (役員)	来客数の動き	・能登半島地震による災害支援関係者の宿泊に加えて、北陸 応援割の予約が重なり高稼働となっている。
	◎	タクシー運転手	来客数の動き	・能登半島地震の関連で、報道関係や保険関係の調査で多く の車が能登方面に向かっているため、市内中心部のタクシー が昼夜共に少なくなり忙しい。また、観光客向けの北陸応援 割もあり、多くの人が来ている。
	○	商店街（代表 者）	来客数の動き	・能登半島地震の影響は一旦落ち着いてきている。北陸新幹 線の敦賀開業や復興支援による消費マインドの向上が期待で きる。
	○	商店街（代表 者）	来客数の動き	・能登半島地震の影響で激減した観光客がインバウンドを中 心に増加中である。今年は桜の開花が前年と比べて遅いこ ともあり、前年比で10%の減少まで回復している。
	○	一般小売店〔精 肉〕（店長）	販売量の動き	・1月に能登半島地震があったためさほど良くなかったが、 3月になり人の出入りも良くなったのか、1～2月にできて いなかった内祝いなどが少しずつ出てきており、多少良くな っている。
	○	スーパー（店 長）	来客数の動き	・客の買い方が大きくなってきており、客単価が上昇してい る。
	○	コンビニ（店舗 管理）	来客数の動き	・北陸新幹線延伸関連のイベントが増え、来客数が増加して いる。
	○	観光型旅館（経 営者）	販売量の動き	・北陸新幹線敦賀延伸の影響があり、3月は新型コロナウイルス 感染症発生前の売上まで回復している。
	○	通信会社（営業 担当）	販売量の動き	・新生活に向けた携帯電話の購入が活発になっている。また、 家族での追加購入も増えており、全体的に販売数が伸びて いる。
	○	住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・景気が良くなっているとは決して考えられないが、客は動 いている。能登半島地震により災害に強い住宅に対する関心 が高くなっており、住宅を求める人や改修への問合せも多 い。必要に迫られた結果かもしれない。
	○	住宅販売会社 (営業)	お客様の様子	・展示場への新規来場者が増えていることや具体的に計画し ている客が増えてきたことから、3か月前と比べると景気が 良くなっている印象を受ける。
	□	百貨店（売場主 任）	来客数の動き	・気温の低い日が続いたため春物や初夏物の衣料品は苦戦し ている。化粧品やラグジュアリーブランド、食品物産催事が 好調に推移し、前年及び新型コロナウイルス感染症発生前を 超える見込みである。また、3月に入って能登半島地震発災 後に街中から姿が消えた欧米豪の外国人観光客が戻ってき て、インバウンド売上も好調に推移している。
	□	百貨店（販売担 当）	お客様の様子	・北陸新幹線の敦賀開業により街中が大きく変化したこと で、県民を中心に街への来訪者が大幅に増加している。しか し、買物目的ではなく、新しい物を見に来る観光が主な目的 で、衣料品や雑貨部門への波及はほぼない。ただし、来客数 の大幅増加や、食に関しては県や市を挙げた街づくりの強化 もあり、当店においてもレストランやカフェの売上は大幅に 増加している。限定的ながら一定の効果はみられる。
□	スーパー（総務 担当）	お客様の様子	・能登半島地震により、被災者に対する支援はあるものの、 いまだ落ち着いていない。	
□	衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・能登半島地震の影響が収まってきたことと、新しい始まり の季節でもあることで、消費も少しずつ活発になっている。	

□	衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・能登半島地震の影響が心理的に購買意欲を低下させ、売上の前年割れが続いている。
□	家電量販店(本部)	単価の動き	・補助金のある地域や商材の動きは良いが、補助金がないと前年割れしている。
□	乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・販売量が増えない状況が続いている。例年この時期になると新社会人による需要が増えてくるが、新車販売量が思うようには増えない。中古車需要は少し増えている。
□	乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・大手自動車メーカーでは生産停止が徐々に解消されているが、本格稼働は2～3か月先になるとみられ、受注への影響が継続している。
□	自動車備品販売店(役員)	来客数の動き	・今月は天候の影響が大きく、春物商材の動きが鈍化し、来客数も前年から大幅に減少となっている。依然として大手自動車メーカーの不正問題の影響が続いており、業界としては来客数や消費の回復に至っていない。
□	その他専門店 [酒](経営者)	販売量の動き	・3月は年度末で何かと物入りが多いせいか、消費者の財布のひもは非常に固い状態である。
□	都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・能登半島地震でほとんどキャンセルになった宴会部門について、回復はしているがまだ前年割れとなっている。宿泊部門とレストラン部門は徐々に回復し、前年売上は超えているが、新型コロナウイルス感染症発生前には戻っていない。北陸新幹線の敦賀延伸以来、個人観光客が街中に増えているように見える。
□	通信会社(職員)	お客様の様子	・客の要望に変化がない。
□	通信会社(役員)	販売量の動き	・商戦期に入り、前年と同様に契約を好調に獲得できている。放送・通信サービス共に、前年と同様の契約者数で推移している。
□	通信会社(役員)	販売量の動き	・新規契約者数、解約者数の大きな変動はみられない。
□	テーマパーク (役員)	来客数の動き	・元日の能登半島地震によるキャンセルや風評被害などの影響は落ち着いたものの、来客数が回復するまでには至っていない。北陸新幹線の敦賀開業や北陸応援割なども始まったが、来客数の回復につながるほどの力強さはまだない。
□	パチンコ店(経理)	販売量の動き	・大きな変化がみられない。
□	その他レジャー施設 [スポーツクラブ](総支配人)	お客様の様子	・好況感はほとんどないが、大人の見学や体験、入会が年始頃に比べて多くなっている。この動きは、2月末で閉店した競合店会員の受皿の1つになっているためと考えている。しかし、春の子供向け短期教室が思うように伸びてこないのが、今の景況感を表している。
□	美容室(経営者)	来客数の動き	・今年に入ってから特に来客数の減少が顕著で、前年より5%強の落ち込みである。
□	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・能登半島地震の影響による修繕の対応が終わらないなか、資金力がある客の新築購入や大規模修繕、耐震リフォームなどの相談が増えてきており、まだ仕事に追われる状況にある。
□	住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・能登半島地震の影響か、住宅展示場への来客数が減っている。
▲	一般小売店[書籍] (従業員)	販売量の動き	・客からの注文数や販売数など、ここ数か月は減り続けている。
▲	百貨店(販売促進担当)	お客様の様子	・気温の低下により、春物衣料品の動きが悪い。3月には定番のように動く入学式や卒業式関連のセレモニーウェア等の需要も少なくなり、気温の影響が非常に出ている。ギフトは洋菓子を中心に前年並みで、人の交流が増えてきている様子がうかがえる。
▲	スーパー(店舗管理)	販売量の動き	・駅周辺等の人口密集地においても、来客数の前年割れが続いている。また、値上げも浸透したとはいえ、買い控えは顕著であり、ドライ食品の販売点数の減少が目立つ。

	▲	衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・アパレル業界は気候により商品の売行きに影響があるため、3月の気候が思った以上に寒く雪も降り、春物商材が売りづらい状況になっている。一過性であることを祈っている。
	▲	家電量販店(店長)	販売量の動き	・必需品しか購入しないため、購入点数が減っている。
	▲	その他小売 [ショッピングセンター](統括)	お客様の様子	・天候不順の影響とみられるが、物販部門では月初めは来客数に対して購入の動きが鈍かった。10日以降は持ち直したが、雨の日が多く物販はやや苦戦している。一方で、新生活需要や飲食とアミューズメント部門は堅調に推移している。桜の開花と北陸新幹線延伸効果などで、天候が安定する時期の外出需要により購買意欲が上がってくることに期待している。
	▲	スナック(経営者)	来客数の動き	・例年、3月は中旬まで静かな日が続くため覚悟していたが、今年は月末まで続き、前年の8割程度の売上である。駅前の居酒屋などは混雑していて入店できないという話も聞くが、タクシー運転手からは当店周辺のエリアには人が歩いていないと聞いている。
	▲	タクシー運転手	来客数の動き	・いまだ能登半島地震の影響があり、観光客もビジネス客も以前より減っているため、タクシーの利用客も減り続けている。
	×	商店街(代表者)	お客様の様子	・北陸新幹線延伸や駅ナカ施設のオープンで駅前周辺の人出は多くなっている。しかし、売上に結び付いている既存店は少なく、意に反して圧倒的に地元客が中心なもの特徴的である。
	×	住関連専門店(役員)	販売量の動き	・来客数に余り変化はないが、買上点数、単価共に下がっている。
	×	観光型旅館(経理)	それ以外	・能登半島地震の影響がある。
企業 動向 関連 (北陸)	◎	—	—	—
	○	プラスチック製品製造業(広報)	取引先の様子	・北陸新幹線の敦賀開業に伴い周辺施設の開業や関連イベントなどが増加している。
	○	建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・年度末ということもあり、土木工事の技術者に余裕がなく、新規取引を断っている状況である。
	○	建設業(役員)	それ以外	・最近の株高やマイナス金利解除等による動向から、やや良くなっていると考える。
	○	通信業(営業)	受注量や販売量の動き	・1月以降は徐々に受注量が増加傾向となっており、3月以降の受注量も順調に増加している。
	○	司法書士	取引先の様子	・事業年度が替わる時期ということで、事業承継を含めた役員変更、会社設立、組織改編などの依頼がある。
	○	税理士(所長)	取引先の様子	・北陸新幹線延伸に合わせた各種イベントや歓送迎会で、多くの人が行き交っている。北陸を応援しようと来てくれた観光客も多く、特にイベント関連や飲食業、観光業が好調である。建設業においては、資金繰りが滞ったことによる倒産が多い。
	□	化学工業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・受注状況は変わらずに推移している。
	□	輸送業(管理会計担当)	受注量や販売量の動き	・特別積合せ貨物運送の物量は前年比マイナスが続いている。
	□	不動産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・今のところ法人客からの問合せや相談が少なく、少し動きが悪くなっている。
	▲	繊維工業(総括)	受注量や販売量の動き	・能登半島地震の被害により、半数を超える繊維事業者が被害を受け、稼働の遅れや稼働率の低下を来しており、1月の生産高が前月より2割近く低下している。稼働をフルに再開できるまでに時間を要する企業もある。
	▲	電気機械器具製造業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・引き続き民生品及び産業機械向け製品の受注が上向かず、製品受注に関し一向に回復の兆しがみえない。新規案件の引き合いは徐々に増加傾向にはあるが、本格受注の時期がまだ確定していないものや、客の受注が決定していないものが多く、製品受注の回復時期が読み切れない。

	▲	輸送業（経理）	それ以外	・2024年問題への対応で高速料金の増加、燃料費の高止まりがみられる。
	×	食料品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・能登半島地震で被災した工場の一部は復旧したが、操業開始までに時間を要する工場もあり、元のラインナップが出そろうまでにはまだ数か月掛かりそうである。復旧工事業者のマンパワーが明らかに不足しており、想定以上に時間が掛かっている。
	×	金融業（融資担当）	それ以外	・能登半島地震の影響がある。
雇用 関連 (北陸)	◎	—	—	—
	○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が増えているように見える。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・合同企業説明会や関連イベントを立て続けに開催していたが、参加学生が極端に少なかった。就職活動の早期化などで既に内々定といった形で就職活動を終了した学生が多いのか、過去10年間を振り返っても最も集客に苦労した就職活動イベントだった。一方で企業側は、人材確保に積極的な姿勢がみられる。
	□	新聞社〔求人広告〕（営業）	周辺企業の様子	・人手不足感は強く、人材確保に苦労している企業が多いように見えるが、求人が多い割に決算の良しあしには差があり、業種によって良いとも悪いともいえない。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・求人数はやや増加傾向にあるが、求職者数が増えていないため、マッチングに苦慮している。
	▲	人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・自動車部品製造の取引先から在庫がたまっていることが原因で、1～2人であるが派遣契約解除の話が出ている。
	×	—	—	—